

日本の社会科学と Japanese Studies： 2つの学問コミュニティと「近代化論」論

講師

荻谷 剛彦（オックスフォード大学社会学科、現代日本研究所 教授）

概要

日本の大学のグローバル化の必要が言われて久しい。スーパーグローバル大学支援事業など、教育研究の国際化を必須とする政策がとられている。ここでは、とりわけ英語による学問の発信力強化が日本の大学の課題として示されている。このようなグローバル化という文脈のなかに日本の社会科学を位置づけてみると、そこから見えてくるのは、たんなる発信力の弱さだけではない。言語の問題を差し置いたとしても、（中心に対する）「周辺」としての日本社会を対象に研究することの意味が問われている。同様の課題は（海外における）日本研究（Japanese Studies）の共有するところである。ところが、そこでの研究と日本の社会科学との間には一線を画するほどの隔りがある。この講演では、まずはこのような2つの学問共同体の関係を論じる。その上で、グローバルな文脈において、日本社会を研究することが持ちうる意味を探る（私的な）試みとして、「近代化論」という一時代を風靡した社会理論=イデオロギーが日本の社会・社会科学に及ぼした影響について、「近代化と教育」というテーマに引きつけながら、試論を展開してみたい。

日時・場所

2016年6月29日（水）16:30 - 18:00

東北大学川内南キャンパス 文科系総合研究棟 11階 大会議室

問い合わせ先

クワトロセミナー事務局（shiotani@m.tohoku.ac.jp）

申込不要、聴講は無料です（どなたでもご参加いただけます）

ネットワーキングのため、セミナー後に立食形式の懇親会を行います（会費 500円）

共催

教育学研究科：本セミナーは「教育学研究科の教育研究の国際化推進プロジェクト 若手リーダー研究者海外派遣事業」の成果をふまえて企画されました